

ル・モンド・ディプロマティーク日本語版の会  
代表 村松恭平氏からの回答に対する池田こみちの見解

2018年9月25日

池田 こみち

(株式会社 環境総合研究所 顧問)

池田 こみち

◆回答1について

日本語版の会は、仏語版の編集、執筆、チェックに関与していないとのことですが、日本語版の会が、フランス語版が掲載した記事の内容をチェックし、一部の内容に根拠が不明確で削除したことについて、原著者にも連絡しておらず、仏語版当局にも連絡してないのは問題だと思います。

私の考えは直接仏語版事務局にご連絡することとします。

◆回答2について

「問題の一文を削除しても著者の主張を歪めることはない」と判断し、著者への確認は行っていない」、とのことですが、勝手に一行であれ記名の記事を削除したことは大きな問題だと考えます。記名記事なので削除すること、その理由について伝え、了解を取るべきです。

「この一文を削除しても著者の主張を歪めることはない」とありますが、歪めないかどうかはそれこそ原著者が判断すべきことと考えます。

◆回答3について

「ル・モンド・ディプロマティークの記事は記名記事であり、内容は著者の責任の範囲」、「一つの問題に対して多様な見方を提示することがこのメディアの特徴であり方針」、「評論やルポルタージュの性質上分析や評価は著者の判断であり、それは尊重すべき」とのご見解ですが、それであればなおさら、一部分を了解も得ず削除することは「著者の判断を尊重すべき」という考えと矛盾しています。

「反論することはもちろんあって良い。議論を発展させる上で生産的と考える」とのことですが、一部を削除されたことを知らない原著者が自らの論考に対して反論されることは理不尽ですし、掲載メディア側が一方的に一部を削除したことは、公平な議論を妨げていることになると思います。

◆回答4について

今回の質問、指摘は私自身が一読者として指摘したものであり、「世古一穂氏の扇動」によるものではありません。私の質問の中で全く触れていない個人の名前を出して、私が知るよしもないことに言及されたことは不可解の一言に尽きます。

特定個人のお名前を出して、推測・憶測であれ「扇動」と指摘されたので、別紙の通り、ご本人から直接見解を頂き、ここに掲載することとしました。

本件についての日本語版の会のスタンスは、回答書で明らかになりましたので公開文書によるやりとりはこれをもって終了とします。

以上